

記者発表資料

平成27年9月11日（金）

教育委員会学校教育課

担当：浅野（内線111）

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果（気仙沼市）について

■文部科学省が全国の小学6年生，中学3年生の児童生徒を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の本市の結果は，国語，算数・数学，理科において，小学校，中学校ともに全国平均を下回る結果となっております。

■国語では，「知識」及び「活用」に関する問題で，小学校は全国との差が縮まっているものの，中学校では2ポイント強の差が見られ，特に，「話すこと・聞くこと」「書くこと」などの「表現力」に課題が見られています。

■算数・数学では，小学校，中学校ともに「知識」「活用」の両方で，全国との差が3ポイント強と依然大きく，特に，「数量関係」と「数学的な考え方」などに課題が見られています。

■理科では，小学校，中学校ともに，「自然事象についての知識・理解」で全国平均を若干上回ったものの，「物理領域」と「科学的な思考・表現」などに課題が見られています。

■児童生徒の学習状況では，小学校，中学校ともに，「基本的な生活習慣」及び「話し合い，発表する学習」で全国を大きく上回ったものの，「家庭学習の時間」に課題が見られています。

■対応策としましては，今後も，分かる授業の基盤となる望ましい学級集団づくりに努め，語句の理解や四則計算などの基礎・基本を確実に定着させるとともに，実生活と関連付けながら，より問題解決的に学び合える授業へと改善し，思考力と表現力の向上に努めます。

【平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果についての概要】

1 調査の目的

- (1) 児童生徒一人一人の学習状況を把握し，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (2) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。
- (3) そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

平成27年4月21日（火）

3 調査対象

- ・小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年の全児童
- ・中学校第3学年，中等教育学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年の全生徒

4 調査事項及び内容

(1) 教科に関する調査

- ・小学校6学年 国語, 算数, 理科
- ・中学校3学年 国語, 数学, 理科

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

5 参加状況

- (1) 小学校調査 市立小学校17校 参加児童数516名
- (2) 中学校調査 市立中学校12校 参加生徒数589名

6 教科に関する調査結果の概況

(1) 教科に関する調査結果一覧【全国・県と市との平均得点率の比較 ※H26は昨年度の比較】(%)

区分	「知識」に関するA問題					「活用」に関するB問題					
	全国	宮城県	気仙沼市	全国比較		全国	宮城県	気仙沼市	全国比較		
				H27	H26				H27	H26	
小学校	国語	70.0	69.6	68.6	-1.4	-0.2	65.4	63.9	65.2	-0.2	-1.7
	算数	75.2	74.1	71.7	-3.5	-1.8	45.0	42.7	40.6	-4.4	-3.5
	理科	60.8	59.6	58.1	-2.7	-0.8 (H24)	※理科はA, Bの区別なし				
中学校	国語	75.8	76.1	73.3	-2.5	+0.4	65.8	66.2	62.2	-3.6	-0.4
	数学	64.4	63.1	59.4	-5.0	-3.7	41.6	40.7	37.0	-4.6	-2.9
	理科	53.0	53.7	50.9	-2.1	+2.9 (H24)	※理科はA, Bの区別なし				

(2) 教科に関する調査の結果

- ◇ 国語については、小学校、中学校ともに「知識」に関するA問題、「活用」に関するB問題が全国平均を下回ったものの、小学校のB問題は宮城県平均を上回り、全国平均との差が年々縮まってきている。中学校は、A問題、B問題ともに、一時全国平均及び県平均との差が小さくなったものの、再び3ポイント前後下回る結果となった。
- ◇ 算数・数学については、小学校、中学校ともにA問題、B問題が全国平均を下回り、特に小学校のB問題と中学校のA問題、B問題で全国平均との差が大きい。特に小学校、中学校ともに「図形」「数量関係」「関数」領域と、「数学的な見方・考え方」が下回った。
- ◇ 初めて悉皆調査となった理科については、小学校、中学校ともに全国平均を下回った。小学校、中学校ともに「自然事象についての知識・理解」が全国平均を若干上回ったものの、「物理的」領域と「科学的な思考・表現」で下回った。

7 学習・生活状況に関する児童生徒質問紙調査結果の概況

(1) 基本的な生活習慣【はやね, はやおき, あさごはん等, 生活に関する項目】

※「比較」は全国との比較(%)

区分	質問事項	小学校		中学校	
		気仙沼市	比較	気仙沼市	比較
1	毎日同じくらいの時刻に寝ている。	85.3	+5.8	80.3	+5.1
2	毎日同じくらいの時刻に起きている。	92.2	+1.2	93.4	+1.3
3	朝食を毎日食べている。	97.1	+1.5	94.9	+1.4
4	普段, 1日あたり3時間以上, テレビやビデオ, DVDを見ている。	29.7	-6.9	28.5	+2.0
5	普段, 1日あたり3時間以上, テレビゲーム等をしている。	13.4	-3.6	16.6	-3.9
6	普段, 1日あたり3時間以上, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをする。	3.7	-2.0	11.6	-6.6

(2) 家庭での学習習慣【予習, 復習等, 家庭での学習に関する項目】

※全国比較(%)

区分	質問事項	小学校		中学校	
		気仙沼市	比較	気仙沼市	比較
7	家で学校の授業の予習をしている。	49.2	+5.8	47.8	+12.5
8	家で学校の授業の復習をしている。	68.6	+14.1	74.7	+22.7
9	学校での授業以外に, 普段(月～金曜日), 1日あたり小学校1時間以上, 中学校2時間以上の勉強をしている(塾や家庭教師を含む)。	66.1	+3.4	26.6	-9.1
10	土曜日や日曜日など学校が休みの日に, 1日あたり小学校2時間以上, 中学校3時間以上の勉強をしている(塾や家庭教師を含む)。	21.7	-2.8	13.3	-4.4

(3) 学習に関する関心・意欲・態度【授業に対する取組に関する項目】

※全国比較(%)

区分	質問事項	小学校		中学校	
		気仙沼市	比較	気仙沼市	比較
11	授業で, 自分の考えを発表する機会が多くあった。	85.9	-0.8	85.7	-0.2
12	授業で, 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた。	87.8	+2.6	83.2	+5.0
13	授業のはじめに, 目標(めあて・ねらい)が示されていた。	86.4	+0.1	77.0	-2.7
14	総合的な学習では, 自分で課題を立てて情報を集め整理して, 調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいる。	77.7	+11.9	69.1	+11.1

(4) 児童生徒質問紙調査の結果

- ◇ 小・中学生ともに, 朝食を毎日食べるなど, 基本的な生活習慣に関する質問に対しては, 全国と比較して肯定的な回答をしている項目が多い。
- ◇ 家庭で授業の予習, 復習をしている割合は, 小・中学生ともに全国平均を大きく上回った。小学生は平日の家庭学習時間も全国平均より高いものの, 中学生は低くなっている。土曜日や日曜日の家庭学習時間については, 小・中学生ともに全国平均より低い。
- ◇ 長時間(3時間以上)テレビやビデオ, DVDを見る割合は, 小学生は全国平均より少なく, 昨年度より改善が見られているが, 中学生の視聴時間は全国平均より多い傾向が続いている。

- ◇ 長時間（3時間以上）携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをする割合は，小・中学生ともに全国平均よりも低くなっている。
- ◇ 授業で，自分の考えを発表する機会は小・中学生とも全国平均より若干低くなっているものの8割を超えており，友達との間で話し合ったりする活動をよく行っている割合は，小・中学生ともに全国平均より高くなっている。
- ◇ 授業のはじめに目標を示されていることがよくあるとする割合は，中学生で全国平均より低くなっているものの，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表する学習に取り組んでいる割合は，小・中学生ともに全国平均を大きく上回っている。

8 学習・生活状況に関する学校質問紙調査結果の概況

(1) 学校質問紙調査結果一覧（一部抜粋）

※「比較」は全国との比較（％）

区分	質問事項	小学校		中学校	
		気仙沼市	比較	気仙沼市	比較
1	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行っている。	82.4	+10.0	100.0	+3.6
2	児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ，積極的に伝えている。	100.0	+3.3	100.0	+4.2
3	国語の指導で，目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行っている。	94.2	+4.9	91.7	+8.5
4	国語の指導で，書く習慣を付ける授業を行っている。	88.3	-3.6	83.3	-11.2
4	算数・数学の指導で，補充的な学習の指導を行っている。	100.0	+8.2	83.4	-5.7
5	算数・数学の指導で，発展的な学習の指導を行っている。	52.9	-8.7	66.7	+1.3
6	理科の指導で，実生活における事象との関連を図った授業を行っている。	64.7	-15.3	100.0	+11.9
7	理科の指導で，科学的な体験や自然体験をする授業を行っている。	88.2	+4.2	75.0	-4.4
8	理科の指導で，自ら考えた仮説をもとに観察・実験の計画を立てさせる指導を行っている。	70.6	-11.0	41.7	-24.1
9	博物館や科学館，図書館を利用した授業を行っている。	11.8	-24.6	0.0	-15.5
10	P T Aや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれる。	100.0	+2.9	91.6	-3.5

(2) 学校質問紙調査の結果

- ◇ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は，小・中学校ともに全国平均より高い。
- ◇ 児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ積極的に伝えている学校は10割であり，全小・中学校が児童生徒一人一人の自己有用感を高める積極的な生徒指導に努めている。
- ◇ 国語の指導では，話すこと聞くことを重視した指導に取り組んでいる学校の割合は，小・中学校ともに全国平均より高いが，書く習慣を付ける指導を行っている学校の割合はいずれも全国平均を下回っている。
- ◇ 算数・数学の指導では，小学校で補充的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合が高く，中学校で発展的な学習の指導を行っている学校の割合が高くなっている。
- ◇ 理科の指導では，小学校で科学的な体験や自然体験をする学校の割合が高い反面，実生活の

事象と関連させる授業を行っている学校の割合は全国平均を下回っている。中学校では、逆に実生活と関連を図った授業を行っている学校の割合の方が高くなっている。小・中学校ともに、自ら考えた仮説をもとに観察・実験する計画を立てさせる指導を行っている学校の割合は、全国平均を下回っている。

9 今後の対応

全ての教科で全国平均を下回っており、昨年度との比較で、小学校国語のB問題以外で全国平均との差が広がっていることから、今後文部科学省と宮城県教育委員会から提供される詳細なデータを分析し、学力向上に向けた対応策を早急に検討していく。

国語では、宮城県学力・学習状況調査結果と同様、小・中学校ともに、語句の意味や文脈の中での語句の適切な使い方など言語に関する知識の着実な定着に向けた指導に努めていく。また、課題の一つである「話すこと・聞くこと」「書くこと」の能力を高めるため、授業と家庭学習とを連動させながら、ノート指導を中心に書く時間を十分確保し、書く習慣を身に付ける指導を一層強化していく。

算数・数学では、全国平均との差が依然大きいことから、今後も複数の教員によるティームティーチングや少人数指導など、児童生徒一人一人の習熟度に応じたきめ細やかな指導に努めながら、基本となる四則計算の確実な定着に向けた補充的な指導を一層強化し継続していく。また、単位量の意味や数量関係、計算式の意味、図形の性質など、数学的な考え方の基礎となる学習事項をしっかりと理解させ、実生活においても応用できるよう、多様な考えに触れることができる学習場を一層重視し、主体的・協働的に学び合える授業への改善に努めていく。

理科では、本市の児童生徒は、科学的な体験や自然体験など、自然に親しむ体験的な学習の機会が多いものの、自らの予想や仮説をもとに観察・実験の計画を立て、その結果を整理・分析し、実生活における事象と関連付けながら解釈する科学的な見方・考え方に課題が見られる。身の回りの事象と科学的に出会わせるための資料提示を工夫し、児童生徒一人一人が素朴に感じている疑問や気づきをもとに、自らの予想や仮説をしっかりとちながら問題解決的な学習が計画的に行えるように支援していく。

今後も、引き続き、分かる授業の基盤となる励まし合い、学び合える望ましい人間関係による学級集団づくりに努めるとともに、教師一人一人の教材研究と授業準備のための時間の確保と、安心・安全な学校風土に支えられた学校教育活動のさらなる推進に向けた支援を一層強化していく。